

# 南スーダン 陸自部隊日報あった

## PKO撤退の可能性指摘 政府が否定の「戦闘」表記

防衛省は7日、廃棄したとして情報開示請求に対し不開示決定した南スーダンPKOの陸上自衛隊派遣部隊の日報について、一転して統合幕僚監部が保管していたと明らかにしました。文書では、首都ジュバの自衛隊宿営地周辺での戦闘の発生などが記され、情勢の悪化によっては国連の活動停止によるPKO撤退の可能性なども指摘されていました。「戦闘」の表記も複数あり、これまで政府が否定してきた「戦闘行為」が起きていたことを裏づける内容です。

↓関連の面

明らかになった文書は、インテレポートと同7月12日、昨年7月11、12日の南スーダン13日付の4文書です。11日の日報は、宿営地周辺で射撃音が聞こえ、戦闘が発生したことを受けて、自衛隊の宿営地内でも射撃事例があったと報告されています。

インテレポートの12日付は、政府側と前副大統領派の戦闘がジュバ市内全域に拡大し、10、11両日も戦車や迫撃砲を使用した激しい戦闘がUNハウスや宿営地周辺で確認され、UNハウスでは中国兵2人が死亡するなど国連部隊の兵士が巻き込まれる事案が発生していることを明らかにしています。また、日々報告には政府側と前副大統領派の関係が悪化した場合の予想シナリオとして、ジュバでの衝突激化に伴う国連の活動停止など、PKO活動が継続不能になる可能性も指摘されています。

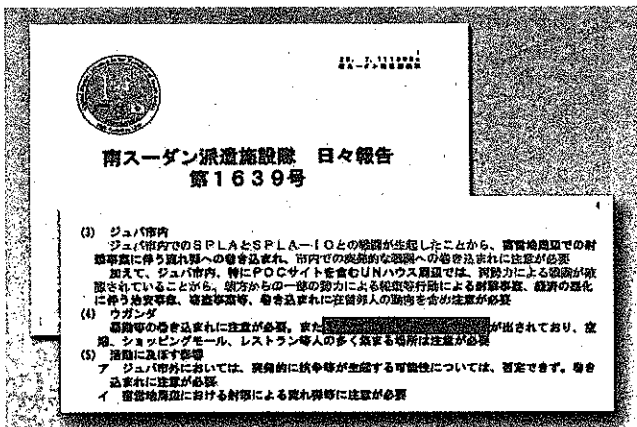
保管が明らかになったのは、ジャーナリストで「平和新聞」編集長の布施仁志氏が情報公開請求して、昨年12月、既に廃棄していた、首都ジュバで政府軍と前副大統領派の武力衝突がと不開示していました。

### 「緊迫状況」検証されず

情報開示請求した布施仁志氏（ジャーナリスト）は「平和新聞」編集長の話が必妥と強調している。公表された昨年7月の日報には「宿営地周辺で戦車や迫撃砲を使用した激しい戦闘を確認」など、当時の緊迫した状況が記されています。



れ、自衛隊が戦闘に巻き込まれることや流れ弾に注意が必要と強調している。PKO参加原則が崩壊しているとの指摘もある中で、こうした現地の情報も十分に検証されることのないまま、派遣継続と安全保障法による新任務付与が決定されたことは非常に残念。重要なのは全て「後出し」では、文民統制は成り立たない。



公表された南スーダン派遣施設隊の日々報告

指摘されています。

2/8  
赤旗

## 南スーダンPKO部隊日報

# 存在確認せず不開示

7日明らかになっ  
た南スーダンPKO  
派遣部隊の日報。当  
初、廃棄していたとさ  
れていました。ところ  
が一転、防衛省大臣官  
房広報課報道室は「不

開示後も、複数の開示  
請求がなされ、範囲を  
広げて探索したところ、統合幕僚監部に  
電子データとして保  
管されていた」としま  
した。

陸上自衛隊文書管理  
規則では、PKO業務  
の文書の保存期間は、  
3年間。「随時発生し、  
短期に目的を終えるも  
の」は例外として作成  
から1年未満の廃棄を

認めています。

日報について防衛省  
報道室は、上級部隊  
に報告後に廃棄され  
る文書で、保存期間1  
年未満に指定されてい  
ると説明。保存期間  
1年未満の文書は開  
示請求に対し、存在を  
確認せずに不開示とし  
ていることを認めまし  
た。